



サロンあべの

サロンつるみ

みんなちがつて、みんないい

〈サロン・あべの〉11月の出会い

〈サロン・あべの〉11月の出会いは、平成17年11月19日(土)午後1時から育徳コミュニケーションセンター2階研修室で、「サロンつるみ」代表の池田美仁さんをお迎えして、鶴見区でのサロン活動についてお話を伺いました。

池田さんは、今回のタイトルを考えるにあたり、詩人・金子みすゞの「私と小鳥と鈴と」の詩に魅せられて、その中のことばがサロン活動をしていく上で最適な表現であると思い、そこから引用したとお話されながら、黒板にその詩を書かれました。

私と小鳥と鈴と

私が両手をひろげても、
お空はちつとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のやうに、
地面を速くは走れない。

私がかからだをゆすつても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のやうに、
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがつて、みんないい。

(島田陽子・著)

「金子みすゞへの旅」より



サロン活動にピッタリの
「みんなちがつて、みんないい」・・・

・きつかけ

「サロンつるみ」は、平成8年4月に発足。来年は10年目を迎える。私自身、医療事務の仕事をしているので、身近に障害者の人もいてお手伝いなどしていた。が、ボランティア活動はしていなかった。ボランティア活動もしたいと思い、大阪市社会福祉協議会に登録をした。そこで、車いすの扱いや手引きの仕方などの講習を受けた。その時の仲間たちとグループを作り活動をし

てみたらと言われたが、具体的な動きが出来なかった。その後、社会福祉協議会の人に「サロンをやってみたら」と言われ、軽い気持ちで「サロンつるみ」を発足させた。第1回目のゲストは「サロン・淀川」の窪田新一さんに来ていただいた。サロン活動を始めるから、サロンてなに？ 障害とは？ 福祉とは？ などと考えた。参加者が何をしにサロンに来るのかも分からず、適当に始めたので、1年くらいは後悔の日々。社会福祉協議会の人にダメサレタと思ったりした。

・ 活動内容

「サロンつるみ」は、偶数月の第2日曜日に鶴見区民センターで開催。また、会報「つるみタイムス」を奇数月に発行している。一番の悩みはスタッフが若いので長続きしないことと、地元に根ざしていなかったので地域の人たちとの交流が出来にくかったこと。

他の区のサロン活動が華やかに思えたこともあったが、年月が経つにつれ、地域の方々のふれあいも多くなった。特に若いお母さん方のグループといっしょに地域の行事をしたり、サロン活動が出来るようになったことが、「サロンつるみ」の大きな特徴といえる。

現在のスタッフは、20〜30代の女性が参加してくれている。が、今後出産ラッシュが控えており手薄になるが、このまま続けていける土台が出来上がってきた。

一人でもサロンを楽しむに来てくれる人がいる限り、サロンは続けて行こうと思った

時からサロン活動が楽しくなつても参加して、品物のやりとりだけではなく、人と人との出会いの楽しさを感じることが出来るようになった。カンパやお菓子の差し入れを受けることもあり、参加者の温かい気持ちがいっぱい。いろんな人がいるが、参加者は横一線、自分の好きなことが何でも言える場所。自分が他人

に何かをしてあげることには出来ないが、いっしょに何かをすることは出来る。共に出来ることをいっしょにしていきたいと思っている。「みんなちがって、みんないい」の言葉は、いろんな個性を大切にしている。いろんな生き方、考え方、その人その人なりによいところがある。みんな違ってあたりまえ、違うことをお互いに尊重したいと思う。こ

れは9年間サロン活動をやつて来て、たどり着いた思いで、サロンを続けて来てよかったと思う。いろんな人からいろいろな事を学び得た。これからも楽しみなが自分らしいサロン活動を開催していきたい。

そして最後に「みんなちがって、みんないい」と詩を朗読された。

休憩後、参加されていた「サロ

お知らせ

<サロン・あべの>1月の出会い

日 時…1月21日(土) 午後1時～4時
内 容…サロンよいとこ、こんなとこ

～ボランティア活動はコミュニケーションが命です～

お客さま…脇坂博史さん

(大阪市ボランティア情報センター / OCVIC 副主幹・社会福祉士)

場 所…育徳コミュニティーセンター2階
研修室(スロープ・車いすトイレ有)

大阪市阿倍野区阪南町5-15-28

TEL. 06-6621-1901

最寄り駅=

地下鉄御堂筋線「西田辺」

赤バス「育徳会館」下車すぐ

会 費…なし

問い合わせ先…

TEL 06-6691-1028 (富田慶子)

ン・淀川」の風船おじさんこと窪田さんに、バルーンアートを披露していただいた。参加者一人づつに半分膨らませた風船を用意していただき、ネズミの作り方を教えていただいた。バルーンアートは区民祭りやイベントでは子どもたちに人気があるということだったが、この日の参加者もバルーンアートを十分楽しんだ。池田さんも馴れた手付きで、出来ない人のお手伝いを

したり、ちよつと高度なキリンを作ったりしていただいた。バルーンアートの後は、参加者に感想をお話いただいた。★ サロンに参加して、知らない世界の話を聞くのが楽しみ。★ 差別と区別の考え方は難しい。人間だから各自の自由もあると思う。

★

聴覚障害があり、他の人と出会うことが少なかったが、手話サークルに参加して友達ができた。★ ボランティア活動を通して、日々の生活を楽しくしている。★ いろんな活動や生活をする、それも生き方の一つ。

参加者からは、ボランティア活動を通して、いろいろな人に出会い、知らなかったことを知る楽しみを得たというお話が多く出ました。「みんなちがって、みんないい」の言葉を自然に受けとめられる地域社会が育つことを願った(サロン・あべの)11月の出会いでした。

(見出し)中西利香・筆
(参加者21名 富田慶子)



サロンと私

サロンさんとの出会いは、私にとって障害者の方を身近に感じた初めての体験でもありました。子どもに絵本の読み聞かせをしてい

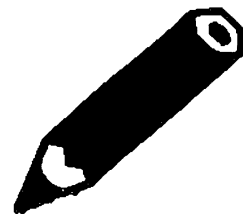
るうちに音訳ボランティアに興味を持ち、サロン紙やサロン文庫の音訳テープの作成をさせていただきました。それ以外にも、毎月の出会いやさろん亭、見学会やお食事会にも参加し、おつきあいさせていただいて、もう10年になるでしょうか。想像の中でしか感じた事のなかった、さまざまな障害を持つ方々との出会いは、現在の私がヘルパーという仕事をやるきっかけになってくれました。それだけのハンディ以外に、何ら健常者と呼ばれる人間と変わらない事、そしてガイドヘルパー

として外出してみ、街が障害者にとってどんなに動きづらいか、また家庭内においてもどんなに生活しづらいか、制度面も含めて少しづつ解って来たところですよ。

ヘルパーになって、楽しくはりのある毎日ですが、仕事が忙しく皮肉な事に、最近ではロンさんに「ごぶさた気味です。これからもサロンさんのますますのご発展、そして細くても良いご縁を持ち続けたいと願っています。

(表谷恵美子)

23



邦子、 23歳の手習い。

重い障害を持つ人たちのすてきな自立生活

自立生活センターナビ主催のセミナー「重い障害を持つ人たちのすてきな自立生活」重症心身障害者でも私のことはわたしが決める」があり、3人の方々のお話を伺ってきました。

重度の身体障害と知的障害をもつKさん(35歳)は、現在、西宮市の市営住宅で自立生活を送っています。Kさん(女性)は障害のため、言葉が出ず、足を動かして「ハイ」「イイ」だけ伝えて、24時間介護を受けながらひとり暮らしをしています。Kさんは養護学校卒業後、西宮市にある重度肢体不自由者通

所施設「青葉園」に通っていましたが、介護は母親が担っていました。1995年の阪神大震災後、父親の身体が悪くなったために、母親が働かなければならなくなり、介護ができなくなりましたが、Kさんの自立のきっかけです。

Kさんは青葉園の30日宿泊プログラムから始まり、グループホームでの生活を体験した後、2000年12月から現在の自立生活を始めました。最初はKさんの自立生活のためのシステムは何もありませんでしたが、Kさんが生きていくためのシステムづくりが、1週間の暮らしや1日の暮らしを考えながら、Kさんと支援者として試行錯誤しながら作られていきました。現在、Kさんは、介護供給センター「かめのすけ」(青葉園通所者が自立生活するための介護を担う目的で作られた)からの介護コーディネーターや介助の支援を受けながら、自立生活を送っています。Kさんの母親は成年後見制度における補佐人の位置づけで、支援機能をチェックし、青葉園職員は毎週、調整会議を開きKさんの主体性を大切にしながら、健康や金銭管理など自立生活全般を支援しているというように、Kさんの自立生活は多くの支援者によって支えられています。

す。Kさんは休日には買い物を楽しみ、お部屋はお気に入りのキティちゃんグッズでかわいらしく飾られて、Kさんの個性があふれています。

鈴木昌守さん(48歳・重度の脳性マヒ障害者)は重度身体障害者グループホーム「とんとんハウス」で現在自立生活を送っています。鈴木さんは20歳後半の時に青い芝の会と出会い、作業所に通い始め、障害者運動にも関わったが、母親は持病のために介護するのが困難になり、46歳の時にグループホームに入居し自立生活を始めました。鈴木さんは、言語障害が重いので、コミュニケーションがとりにくいことが自立生活にとって最も大変なようです。自立するまで、母親は彼のことを何でも理解して46年間介護してくれていたこともあり、彼にとって空気のような存在でした。それだけに、鈴木さんは年齢を経てからの自立の難しさの経験から、若いうちから自立生活を始めることが大切だと言っておられました。

玉木健一さん(30歳、脳性マヒ障害者)は小学校2年から26歳まで、施設での生活でした。20歳の時に自立生活センターの自立生活

プログラムに参加して、自立生活への意欲を高めていきました。彼は、施設から作業所への体験通所、自立生活者宅への宿泊、自立生活センターナビでの体験入居を経て、2002年6月に施設を出て、大阪市内のマンションで1人暮らしを始めました。施設の中では、職員が当たり前のように毎日決められた事を決められた時間に介護する形でしたが、体験入居では自分の指示でヘルパーを動かす事の難しさを知ったということでした。しかし、今では介護調整も自分で行い、自分の生活を自分で組み立てています。「施設は人が自分の生活パターンを決めるが、自立は、自分で決めて、ヘルパーに助けをもらいながら、いろいろなことができる。普通に暮らせるのが楽しいし、エンジョイしている」今は、自分の自立生活の経験を話すことにより、多くの障害者が僕のように自立しているように社会的に貢献したい」という抱負を語っておられました。

それぞれの経験を経て、自立生活をされている3人の方達の自立への強い意志は最も大切なのですが、それを支える支援者やシステムも決して見逃せないことだと感じました。

(定藤邦子)

今、うらないブームだと言われている。特に若い女性には人気があるらしい。私はこれまでうらないには全く関心も興味もな

かったし、一度もみてもらったこともなかった。それというもうらないで自分の運勢が分かるはずがないと思っていたし、私の尊敬する某宗の宗祖が「卜占、祈祷はしてはいけません」と教えられていたからである。

ところがひょんなことから先日、女性落語家のMさんにうらないを見てもらったのである。うらないには花うらないや星うらない、トランプうらないなどがあるが、Mさんは私の生年月日を聞かれただけで、うらなって下さった。私はMさんの前に座ると、細木数子のようにズバリ言われるので

はないか、と胸がドキドキしていた。しかし意に反してこんなことを言われた。

○良い人生を送っています。

○食べること(お金)には不自由しない。

○創作力があるので、これからもどんどん書きなさい。

このあとMさんは「健康にはくれぐれも気をつけて下さいね」と言われてうらないは終わったが、思い当たるふしもあり、「当たらずとも遠からず」だな、と思った。

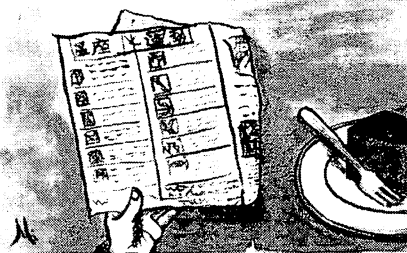
だからといってうらないを前端的に信じるようになったわけではないし、宗祖の教えに反したことに内心^{じくじ}忸怩たるものがある。

でも良いことは大いに信じたい。良いことは大いに信じよう!

晴れのち晴れ 87

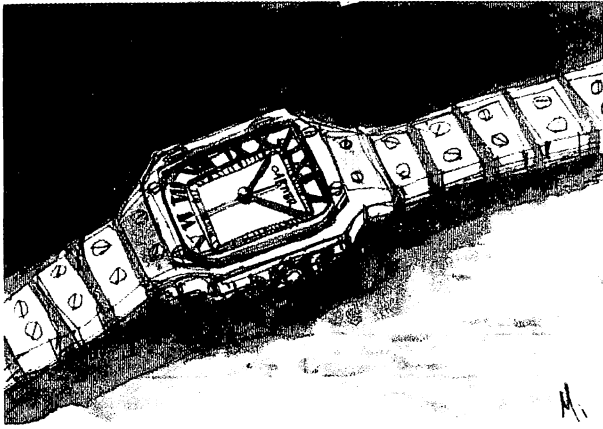
うらない

稲垣 恵雄



先に延ばす癖

先月号には「私は毎日忙しい」などと書いたが、実はそうでもないのである。時間はあるのだが、なかなか肝心なことを始められない。いつも先延ばしにしているの



ある。

はなはだしい例をあげると、明日の授業のために準備を始めるのが、夜の十時ごろだったりする。それまでたつぷりと時間があつたのに、何をしていたのかと思うのだが、そうなることは一度や二度ではない。

それで結局、午前二時、三時、時には四時ごろまでかかって授業の準備をする。朝起きるのは、ここところ午前六時半と決まっているから、睡眠時間は三時間か四時間で大学に行くことになる。

自覚はないのだが、そんな寝不足で起きてきた日には、私はひどい顔をしているらしい。ポーツとして焦点が定まらない表情をしているようだ。朝食が出るまで、ただテーブルに座ったきりで、妻に言わせれば「お客さんのように座っている」。食事が準備されると、大きな声で「行ってきます！」と叫んだりする。もちろん、本人は「いただきます！」

年賀状の名前を見つづ人間の分類をする今年が終わる

—— 俵 万智 (サラタ記念日)

サロンの一筆箋

一冊一〇〇枚綴り一五〇円

のつもりなのだが、それだけ意識が朦朧(もうろう)としているわけだ。

三〇代のころは、まだそれで通用していたが、四〇代になると体がもたなくなってきた。それだけ寝不足になると病気がちになる。病気になれば、もちろん大家族に大きな負担がかかる。

なぜ、すぐに大事なことに取りかかれなにか、なぜ先延ばしにしてしまうのか、何度も考えてきたことだが、改めて反省してみると、私の場合ふたつぐらい理由がありそうだ。

往く年、来る年

広葉樹の枯葉が舞い散る様子を見てみると、風がなくてもはらはらと際限なく落ちてきます。散り行く先も葉っぱの意志に任せているように木の周りにおちるのではなく、辻を越えて行くものもありました。木漏れ日の揺らぎを楽しみながら、木の葉は、風があろうとなかろうとその時が来れば離れていくのだと思いました。命あるものもないものも時間の流れの中で生きて生かされて、次世代に伝える何かを残せたら生きて証になると感じました。今年も残り少ない日々になってきました。<サロン・あべの>のこの1年は、サロン発足20周年を記念して、各区で活躍されているサロンの代表の方々にお話を伺ってきました。各サロンの特色ある活動には、学ばせていただくことが沢山ありました。サロンを通じて尊敬できる多くの方々にもお会いできました。サロン活動を理解して、応援してくださった方々のその温かいお心は今の活動につながっていると思います。サロンの立ち上げに積極的に参加してくださった方々の中には、結婚や転勤でサロンを離れられた方々もおられます。どこかでサロン活動のうわさを聞いて、あの時のサロンがまだがんばっていると思っていただけたらうれしいと、思ったりもしています。また、今は鬼籍に入られた方も少なからずおられます。今年も喪中のお知らせを幾人かの方からいただきました。逝く人、生まれ来る人、人と人との行きかうサロンは、往く年、来る年にも思い出に残る出会いの楽しさを実感していきたいと願っています。今年1年、ありがとうございました。(け)

.....あまみみずさん

一つは、先延ばしにしているものには集中力が要求される。集中することが億劫(おっくう)なために、それほど集中力を必要としないものを先にしてしまうのである。たとえば、インターネットのニュースを何時間も見ていたりするが、これはただ指先を動かしてクリックするだけで良いからである。ニュースを読みながら考えているような感じがするが、実は何も考えていないのだらうと思う。

何時間も片付けをしているのも同じ理屈

だ。だいたい、録画していたテレビ番組をみながら片付けていることが多いので、私の場合は、ほとんどポーツとしながら片付けているのである。

第二に、現実を見るのを避けているのである。例えば大きな借金をかかえた人がそれを忘れるために散財することがあるが、それは自分が忘れていれば借金も無くなるような気がするからだらう。しかし、本人が忘れていても借金はあるし、忘れている間に借金は利子が増えて、かえって膨らんでいるのである

る。しなければならぬ仕事を放っておいて、それで仕事が無くなるわけではない。仕上がりが遅くなって、かえって事態を悪くしてしまうだらう。

では、どうすればいいか。先人の知恵を拝借するためにいろいろ本を読んだが、答えは簡単明瞭、すぐに手をつけて始めることだといのである。しかし、それができないから悩んでいる。どうどう巡りの悩みがそこにあるわけだ。

(知)

赤松 昭

「谷間」に 「こだわり」続けて

19

「これも福祉の谷間？」

今回は話題一転。

メゾン・ド・ヒミコという映画を観ました。銀座のゲイバーで一世を風靡したママ・ヒミコ(田中泯)が引退後、ゲイのために設立した老人ホームを舞台にしたもので、ヒミコの娘役に紫咲コウ、ヒミコの愛人役にオダギリジョーをキャストイングした話題作。監督は「ジョゼと虎と魚たち」を撮った犬童一心だったので、いくぶんの期待を胸に映画館を訪れたのですが、ホームの入所者であるゲイ

のキャラクターが「いかにも」という感じで、映画としての出来は今ひとつ、というのが私の正直な感想でした。ただ、映画を見終えた後、全国におよそ数千はあるであろう老人ホームの中に、こうした性的少数者の受け容れを表明していることがないことに気づきました。いわゆる、老人ホームのウリは「余裕の空間ユニットケア」であったり、「心のこもった職員の接遇」であったり、「もしもの時も安心! 医師が24時間常駐」であったりするわけで、「あなたの性志向尊重します」などと銘打ったホームは聞いたことはありません。もちろん、そうした性的少数者(マイノリティ)が入所者の中にあることを把握し、例えば入浴介助等をどうすればいいかを考えている現場の人はいるでしょう。でも下手をすれば、そうした性志向を表沙汰にした途端、「問題行動」として捉えられ、施設側からやんわりと退所勧告を受けるのがオチかもしれません。

障害者の「性」も同様ではないでしょうか。これまで障害者の性を語ることはタブーとされてきました。それどころか、障害者には性の欲求はないものとされ、ひどいケースでは

去勢や子宮の摘出まで行われて、人間としての基本的な欲求を否定されてきたのです。最近になってそういう状況に変化がみられ、障害者のセクシュアリティは徐々に語られるようになりました。しかしまだ、障害者の生活場面に関わる施設職員や家族は、障害当事者の性と正面から向き合っているとは言いがけないのではないでしょうか。ましてや、障害者の基本的な生活権さえ保障されない昨今の状況の中で、障害者であり、かつ性的マイノリティである人について、本格的な議論が登場するのは当分先になるでしょう。これもまた、福祉の谷間といえるのかもしれない。

ありがとうございます。

カンパ、お茶・お茶菓子・バザー用品、また、サロングッズのお買い上げなど、ありがとうございます。

網谷保子、神谷君栄、高橋幸子、玉置明美、竹村定子、竹下洋子、照井邦子、富田万里子、藤井さゆり、紅田蘭、松村美鈴、その他の方々。(敬称略)

ひとつずつ
ひとつだけの世界
ひざ掛け

8



池内沙織

手沙織工房

幅の違うポケットが2個ずつ付いているので、携帯電話、ティッシュ、ハンカチ、懐炉などを入れるのに、便利です。

枚、グリーン3枚・・・合計5枚
□値段
4000円（送料別）

□サイズ

98センチ×74センチ

□ポケット

コーティング布側に、深さ20センチ、幅10センチと14センチの2種類のポケットが2個ずつ

□色別在庫

*カシミヤがエンジ コーティング布が、柄5枚、ブルー4枚、赤2枚、グリーン4枚・・・合計15枚

*カシミヤがベージュ コーティング布が、グレー2

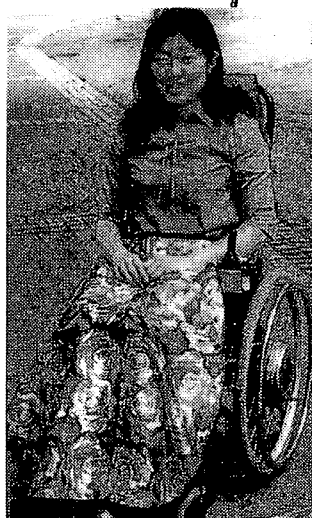
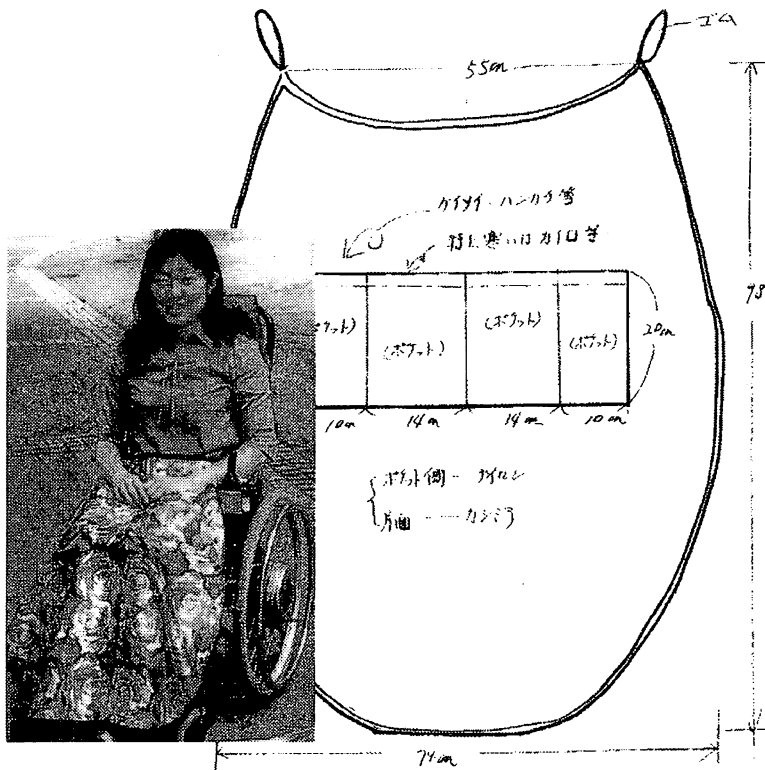


本欄第1回で「多機能ひざ掛け」を紹介しましたところ、全体の形や寸法、ポケットのことなど、お尋ねがありましたのでもう一度・・・

厳しい寒さがひとしお身にしみるところとなりました。冬の外出に欠かせない、保温性バツグンのひざ掛けの出番です。

段差による衝撃でずり落ちたり、突風に飛ばされることなく、安全です。その日の洋服に合わせたり、TPOで、両面使い分けを心がけるといっそうオシャレが楽しめます。

外出はもちろん、室内での仕事や食事時にもお使いいただけます。



Yuimarl

—お問い合わせ先：手沙織工房☆池内沙織—

〒567-0048 茨木市北春日丘4-9-24 井上ビル101

TEL & FAX 072-627-8611 携帯 090-8129-9115

E-mail: tesagurikobo@hcn.zaq.ne.jp

ゆい・まある（沖縄の方言）
つながり・助け合い・お互いさま

美智子のこんな話

岸田美智子

QOL（生活の質）プロモーター養成に

よる地域活性化事業がスタートしました

大阪市立大学は、住吉区にあり、生活科学研究科の堀先生は、「まいど」のスタート時期から運営委員をお願いしています。そんな経緯から今回、生活科学研究科の先生たちが新しい試みの事業を試行されることになりました。この事業は、文部科学省が大学教育改革の促進を目的として、各大学が取り組み、教育プロジェクトの中から特色ある優れた取り組みとして選定されました。それがこのQOLプロモーター育成による地域活性化プロジェクトです。この取り組みは、生活上の一つの問題を今までの枠をとっぱらった新しい専門家のネットワークを作り、解決していくという試みです。例えば、障害者問題を今

までのように人間福祉学科だけで捉えていくのではなく、食品栄養化学科（健康）や居住環境学科（環境）などの面からも連携してその解決策を具体的に考えていくものです。

解決策を、またこのシートの形式に書き込んでいき、それをもって今度はみんなの前で発表し合いました。

私のグループで持ち帰ったテーマは、介助者なしでの電動車いすで移動中に放置自転車があり、身動き出来なくなったという問題でした。この問題について私たちのグループでは、いろいろ話し合った結果、三つの解決策が出てきました。

この事業のワークショップが11月26日にあり、岸田も話題提供者として参加してきました。この日の進め方は岸田も含めた話題提供者3名が発言した後、グループにわかれ、参加者全員が一人ずつ今、一番生活上で問題を感じている事を選び、QOLプロモーションからみた解決策（シート）に書き込んでいきました。このシートには、（どこ）で（だれ）が（なに）で困っている場面という書き込みの欄があり、その下に具体的な場面を絵に描いていきます。このシートには記入者の名前を書きません。この出来あがった全員のシートを壁に貼り、参加者全員で一人五つまでを選んで、シートを貼っていきます。その後、このシートが多い順に7番目まで選びました。そして、この7枚のシートの問題を一つずつ各グループに持ち帰り話し合っ

た。その一つ目は、有料駐輪場を廃止して、無料で置いてもらえる場所を提供する。二つ目は、自転車ボランティアを組織し、駅や銀行、商店街などの人の集まる所に配置して、常に監視してもらう。これは元気な高齢者の活動作りにも、有効的に作用するのではないかということでした。三つ目は、放置自転車を見つけて処理した人には、ハッピーマナーポイントがもらえ、このポイントを集めると、何か得点がもらえるようなポイント制にしたかどうか。という三つの案が出ました。いずれの案も有効的で明日からでも取り組みそうな解決策だと思いました。

私のグループは人間福祉学科、食品栄養化学科と居住環境学科の学生などがおられたので、障害者が地域で生きていくときの問題

を、この他にも話し合うことが出来ました。私は、このプロジェクトに今後も関わっていきながら、地域での自立生活のQOLが本当に入所施設より、良いものになっているかを考えていきたいと思っています。

最近、とくに自立生活は実現出来たが、日中、活動が楽しくないとか、外出をほとんどせずにパソコンだけとか、自己決定・自己選択は良いのですが、栄養や病気の知識を知らないまま、かたよった食生活などで太ってしまい、動きづらくなり、介助が必要になったり、引越しを考えなければならぬ状態になったりして、QOLが悪くなってしまう問題は、今後増えていくような恐れを感じます。このような状況を変えていくためにも、このプロジェクトが有効的ではないかと思えます。

○連絡先

社会福祉法人あいえる協会

自立生活センター・MY-IDO(まいど)

〒558-0002

大阪市住吉区长居西1-9-12キミハウス1階

TEL 06-6609-3133

FAX 06-6609-3210

Eメール cil-mydo@jasmine.ocn.ne.jp

声で読書のお手伝い

音訳テープのご案内

音訳グループ「糸でんわ」のご協力で(サロン・あべの)紙第233号の音訳テープが出来ました。

■音訳テープ文庫

- (a) (サロン・あべの)紙は、第1号より第233号までそろっています。
- (b) (サロン・あべの)十周年記念誌「はあとが、はろー！」
- (c) 絵本「未知の記憶」(作・絵 中川勝彦)
- (d) 「ラジオたんぱ」放送「(サロン・あべの)平成7年5月の出会い」放送分(30分)
- (e) エッセー集「逃げた『ヨナ』～ボランティア活動の周辺～」(岡本栄一著＝糸でんわ音訳)
- (f) 「キミたちだけじゃ困るんだ～身障者だけで旅した十余年～」(山田誠1995・2・22著＝糸でんわ音訳)
- (g) 「金子みすずへの旅」(島田陽子著＝糸でんわ音訳DJ)
- (h) 「夕やけ空のオニヤンマ」(牧口一二著＝糸でんわ音訳)
- (i) 「ガベちゃん先生の自立宣言」(曾我部教子著＝糸でんわ音訳)
- (j) 「セルフヘルプグループ」(岡知史著＝糸で

んわ音訳DJ)

- (k) 「名物 天王寺かぶら」(猿田博創作 難波利三監修＝大阪市立天王寺図書館制作)
- (l) 「知らされない愛について」(岡知史著＝ばけつと音訳)
- (m) 「愛 ひとり旅」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (n) 「奥田真祐美のシャンソン手帳」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳DJ)
- (o) 「もうちょっと知っとく? 私たちの阿倍野」(難波りんご著＝糸でんわ音訳DJ)
- (p) 「猫とシャンソン」(奥田真祐美著＝糸でんわ音訳)
- (q) 「ほんの少しの神に近い部分」(岡知史著＝糸でんわ音訳)
- (r) 「動くしずかに」(河野勝行編・著＝糸でんわ音訳)
- (s) 「たまごが ポン！」(稲垣恵雄著＝糸でんわ音訳DJ)
- (t) 阿倍野名所旧跡いろはがるた(猿田博＝糸でんわ音訳)
- (u) 交わりのなかで ～ホームヘルパー残像～(加藤みどりさんを偲ぶ文章を作る会著＝糸でんわ音訳)
- (v) 富田慶子出演の「ちょっといい話」(朝日放送6月26日と9月18日)の録音テープ
ご希望の方には、ダビング、または貸し出しをします。富田(☎06・6691・1028)まで。音訳の後の※印はディジー録音。



SALOON

毎月ニュース

1月はどこのサロンの、どのテーマがお
気に入りですか。いい出会いしませんか。

■「サロン・淀川」1月の出会い

日時：1月15日(日) 午語1時30分～4時
内容：災害は忘れたい程やって来た
～家庭内の防災について考えませんか～
ゲスト：羽毛田(うもうだ) 暁(ひかる)氏
地域防災を考える会主宰
会費：なし
場所：淀川区在宅サービスセンター「やすらぎ」
[大阪市淀川区三国本町2-14-3]
問い合わせ先：淀川区社協(ボランティア・ビュー
ロー) ☎06-6394-2900
E-mail: sorajii@iris.eonet.ne.jp

■「サロン・にし」1月の出会い

日時：1月14日(土) 午後2時～4時
内容：書初めを楽しもう!
(手ぶらで来てください)
会費：なし
場所：西区在宅サービスセンター6階
ボランティア・ビューロー室
大阪市西区新町4-5-14 (西区役所隣)
地下鉄=西長堀駅4-A号 出口からすぐ
市バス=地下鉄西長堀駅からすぐ
☎06-6539-8075
問い合わせ先：関口 ☎090-4281-5641

■「サロン・にしよど」1月の出会い

日時：1月未定
内容：未定
参加費：未定
問い合わせ先：中本勝也 ☎090-9864-9678

■「ウイズ東淀川」1月の出会い

日時：1月8日(日) 午後1時30分～4時
内容：新春 カラオケ大会・紙芝居
特別ゲスト：覺藤(ガクドウ) 和夫・クニ様
(紙芝居をしていただきます)
会費：なし
場所：東淀川区在宅サービスセンター
「ほほえみ」
東淀川区菅原4-4-37 ☎6370-1630
問い合わせ先：鈴木昭二
☎・FAX 06-6340-3082

■「サロン・いたみ」1月の出会い

日時：1月21日(土) 午後2時～3時
内容：初春コンサート
演奏内容=ビバルディ「四季」より春
みんなで歌おう=「かぞえうた」「早春
賦」「カチューシャ」など
ソプラノ独唱=青い山脈、月の砂漠、ア
ベマリアなど
演奏：モレ弦楽四重奏団
会費：なし
場所：伸草苑[伊丹市寺本6-150]
問い合わせ先：黒野富美子
☎072-781-3549

■「サロン・北」1月の出会い

日時：1月21日(土) 午後2時～3時30分
(開場-1時30分)
内容：オカリナを楽しもう!
「涙そうそう」「琵琶湖周航の歌」他
*演奏終了後に演奏者とのお茶タイム
出演：リナリナ・オカリナクラブ
場所：障害者福祉作業センター「たけのこ」
[北区本庄東2-6-11 宝来堂ビル
1階 本庄川崎公園北側、緑色のテント
のあるビル]
定員：20名程度、お早めにお越しください。
会費：なし
問い合わせ先：サロン・北事務局担当=山根
☎06-6372-8074 FAX 06-6372-8867

<サロン・あべの>VOL.234 発行：平成17(2005)年12月17日 定価¥100
編集人：<サロン・あべの>運営委員会 表題：中西利香・筆 文中イラスト：石田美禰子
事務局：〒545-0021 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 富田慶子方<サロン・あべの>
TEL・FAX 06-6691-1028 郵便振替口座：サロン・あべの 00950-9-26941
印刷：セルフ社 〒546-0044 東住吉区北田辺町4-23-2 ミスターDビル2F TEL06-6719-8212
ホームページ：http://pweb.sophia.ac.jp/~t-oka/salon/ 「サロン あべの」でも検索できます

一九九九年九月三日第三種郵便物認可(毎日発行)